Catch the WAVES!

新潟県立佐渡中等教育学校
学校だより 令和4年度 9月号①
HP:http//www.sado-ss.nein.ed.jp

校長先生　全校集会　講話　令和4年8月26日

皆さん、おはようございます。久々に元気な顔を見ることができ、大変うれしく思います。コロナ禍３巡目の夏は、猛暑、豪雨の異常気象でした。村上市・関川村を中心に豪雨災害に遭われた皆さん・関係者の皆さんにはお見舞い申し上げます。３年ぶりに行動制限のない夏は、第７波感染拡大の猛威に翻弄され、全国のみならず島内でも加速化し、本校をはじめ各小中高でも感染者が出ています。いつ誰にでも起こりえますので、引き続き感染予防対策を強化願います。

とはいえ、行動制限がない中で感染対策に努めながら旅行や帰省で家族や親戚、友人と久々に再会でき交流を深められてよかった人もいたかもしれません。

日本三大花火の一つ、長岡花火も３年ぶりに開催されました。中越地震の翌年から打ち上げられた震災復興祈念のフェニックスは、BGMの「Jupiter」も同様、震災後を思い出し被災した私を含め、多くの皆さんの胸を熱くさせてくれましたし、今、コロナ禍を生き抜き、辛い思いを乗り越えるための勇気も与えてくれました。

また、観客を入れての夏の全国高校野球大会は、仙台育英高校が東北初の優勝で締めくくりましたが、ひたむきにプレーする選手の清々しさ、熱い闘いは、不自由が多かったコロナ禍３巡目の全国の高校３年生、中等教育学校６年生をはじめ、多くの皆さんにたくさんの感動を与えてくれました。

さらに、エンジェルスで孤軍奮闘する、二刀流大谷翔平選手のベーブ・ルースを抜く２桁勝利、２桁本塁打も素晴らしかったですし、彼の持つ人間性にも誰もが魅了され続けています。後半戦のますますの活躍に目が離せませんね。

その一方で世界に目を向ければ、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻から半年を過ぎても、相変わらず想像を絶する虐待や凄惨な行為が続くのを見聞きするたびに胸が痛み、一刻も早い終息、世界平和を心から祈るばかりです。

こういった輝いている人々や困難を抱えている人々、社会情勢等に興味関心を持ちながら、人としての生き方、あり方を学んでほしいものです。

さて、夏休み前に３つの話をしましたが、覚えていますか。①「自己指導能力」を身に付けた「自立した学習者・生活者」に成長してほしい、②校長の私からのお願いとして、生徒の皆さんの夢の実現に向けた学習時間確保と先生方の負担軽減のための今後の部活動のあり方、さらに、③教育の大切さ、教員は日本の未来を支える人づくり、故郷に貢献する教員をめざしてほしい、という話でした。その中で、今、将来の夢、なりたい職業が決まっているかどうかを挙手してもらいました。学年によってばらつきがありましたが、夏休み中に自分を見つめ直し卒業後を想像して、自分の将来設計は明確になりましたか？**既に明確な夢を持っていた人は、実現に向けより強い志となったでしょうし、明確でなかった人は、将来を見据えて新たな決意をして歩み出したと信じています。それでもなお明確でない人は、家族を始め身近な大人や周囲の社会人の働く姿を見て、社会貢献や自立を意識した生き方から将来を展望し、必要な学びを深めていきましょう。**

この夏、7月、8月に起こった様々な事件や社会問題を見聞きし感じながら、夏休み明け全校集会校長講話の構想を練り、このテーマに辿り着きました。

それは、「家族とは何か」についてです。御存知のように、7月には安倍元首相が凶弾に倒れ衝撃を受け、逮捕された容疑者がいて、背景には新興宗教への多額の献金による家庭崩壊、家族離散、二世信者と言われる方々の家族との関係の苦しみ、選挙応援に携わった団体と政治家との関係等が報道されています。

政治家の家庭で生まれ育ち政治家として生きていく人生、裕福な家庭が一転した環境のもと残された母親と兄妹の間で生きていく人生、たまたま生まれ育った親のもと宗教２世として翻弄され生きていく人生等、様々な人生が垣間見えてきました。言うまでもありませんが、いかなることがあってもこの事件は肯定できることではなく、あってはならないことです。

また、最近になり、様々な状況の保護者の面倒を見ている「ヤングケアラー」、自分では親を選べないということから呼ばれる「親ガチャ」という言葉も、使われるようになりました。これらを一括りには

できませんが、置かれた状況は共感でき、わからないではありません。何とか関係機関に救いの手を伸ばせなかったのか、また、周囲が気づいてあげられなかったのか。皆さん自身が今、このような環境であったり、もしもこのような環境になったりした場合には、どうか周囲に相談して救いの手を伸ばしてほしいですし、気づいてほしいです。

さらには将来、このような困った人を救えるような法的・社会福祉的な視点で対応する弁護士や社会福祉士等といった職業をめざしてほしいと願います。

私事ですが、今年度から我が家は、佐渡、長岡、東京では２人の息子が別々で、４人が離ればなれの生活をしています。子育ては母親任せであったことを父親として反省し悔いているのですが、いつまでも親は親であり、子離れができないのか、息子たちが元気に暮らしているのか気掛かりです。親ばかですね。

一方、私の高齢の両親は幸い健在ですが、親になってみて両親も同じように当時自分のことを気遣い育ててくれていたのかと、今頃になってしみじみと感謝しています。なかなか会えない両親を思いながら残された時間を大切にしなくてはと考えています。家族の形は様々ですが、親と子の関わり、家族の絆は永遠であり、強くつながり、深く結びついているものと信じたいものです。

最後に先月、校長対象「いじめ対策」研修会に参加しました。報道で御存知かと思いますが、いわゆる第３号案件でのいじめ自殺被害者御遺族の講演でした。

御父様の言葉「この件は防げたこと、二度と繰り返さないように未然防止、SOS の発信に気づく、教員は心に余裕がないとイライラし見過ごす、抱え込まず情報共有と連携で組織的対応、被害者に寄り添い守り抜く姿勢、校長のリーダーシップ等･･･」が印象に残っています。校長として、父親として、自分事として拝聴しました。いじめによる苦しみや辛さに気づいてあげられず、手塩に掛けて育てたかわいい我が子、家族を失った親の悲しみはいかばかりでしょうか。親から授かったかけがえのない命を大切にしてほしいと切に願います。当該校の校長・教職員だけでなく、私たち全教職員が二度と同じ悲劇を繰り返してはいけないと考えています。

私は、日ごろから最悪を想定し、最善を尽くしたいと考えています。毅然とした態度でいじめ見逃しゼロをめざし、安全安心な学校づくりが校長としての責務であると訴えています。そして先生方は、進路実現のための学習指導・進路保障、生徒理解・特別支援教育・教育相談・学校行事等の生徒指導・生徒会指導、そして部活動指導等、学校生活をとおして、皆さんの心身の成長を支援し、自立した社会人となれるよう、情熱を持って親身に指導しています。さらに、皆さんの様子の変化を見逃さず、面談やアンケート、情報共有や組織的対応を行っています。これらが持続可能となるためにも、先生方には心に余裕をもち、リフレッシュをしてワークライフバランスを図ってほしいのです。

御家族も私たち教職員一同も、皆さんの前途有望な将来を期待しています。だからこそ皆さん、生きていく上で様々な困難は付きものですが、どうか、めげず、あきらめずに逞しく成長してほしいと思っています。

夏休み明け、久々に登校し、「気持ちが重い、本調子ではない」と思う人も少なくないでしょう。私たち大人でさえも同じ気持ちになる時があります。

そういう時は、身近な友だちや大人に SOS を発信し、悩みや困り感を話してみましょう。きっと解決、解消の手がかりが見つかるはずです。

各種アンケート結果では、悩み事の相談相手は、親でも私たち教員でもなく、友達が一番となっています。つまり、皆さん一人一人が困っている人の「一番」ということです。まずは、いじり、からかい、といったいじめ、いじめ類似行為等、他人が嫌がることはしない、させないこと。困ったら SOS を発信し、また、SOS を受け止める、その人の「一番」であり続けてください。

今日は、コロナ禍３巡目の夏に起こった出来事を振り返りながら、①「将来の夢は明確になったか」、②生まれ育った環境、背景を踏まえて「家族とは何か」「家族の絆の大切さ」、③いじめ自殺被害者御遺族の講演から「いじめ根絶と命の大切さ、止められたはずの悲劇を二度と繰り返さないこと、SOS の発信を」、といった３つのお話をしました。

今後もまだコロナ禍は続くと想定しながら物事を考え、各学年に応じた自分の目標に向かって、努力を続けていきましょう。まずは、約２週間後の期末考査へ向けてゆっくりとギアを上げ、１学期を締めくくってほしいと思います。

「実りの秋」となるよう、これからの皆さんの頑張りを期待しています。